

# 文化人類学コース

## Ⅲ 岩本 通弥

### 1. 研究・研究成果の公刊

- (1) 著書
2. 編著
  - ・岩本通弥編『方法としての〈語り〉—民俗学をこえて』ミネルヴァ書房、2020年、380頁
- (2) 論文
  1. 単著
    - ・「日本の生活改善運動と民俗学—モダニゼーションと〈日常〉研究」『日常と文化』7号、2019年、15-31頁
    - ・「新版・「民俗」を対象とするから民俗学なのか—民俗学と「近代」あるいは現代民俗学へのプロローグ(ハングル)」『日常と文化』7号、2019年、137-152頁
    - ・「当たり前を問う、普通の人びとを描く—日常史と民俗学」東京大学教養学部歴史学教室編『東大連続講義 歴史学の思考法』岩波書店、2020年、157-174頁
- (3) 学会、研究会発表
  - ・「東アジア民俗学の再定立—〈日常学としての民俗学〉へ」実践民俗学会「ポスト帝国の文化権力とヴァナキュラー：民俗学から日常を問う」(韓国・翰林大学校)、2019年7月6日
  - ・「日常学としての民俗学—柳田國男と橋浦泰雄から考える」鳥取県立博物館講演会、2019年12月8日
  - ・「日韓の無形文化遺産と民俗学—UNESCO条約の対応とその相違」東京大学韓国学研究中心、2020年1月14日
- (4) 書評、記事、エッセー、その他
  - ・「解説 生きた怪異を活写する、それが可能だった時代」桜井徳太郎『民間信仰』ちくま学芸文庫、筑摩書房、2020年、369-378
- (5) 辞書編纂、翻訳、上演等、その他

### 2. 教育実績

- (1) 前期課程担当科目  
民族文化論、歴史と文化
  - (2) 後期課程担当科目  
民俗学、日本文化研究Ⅱ
  - (3) 大学院担当科目  
文化認識論Ⅱ、民族社会論Ⅰ
3. 学内行政業務  
超域文化研究紀要編集委員

## Ⅲ 藏本 龍介

### 1. 研究・研究成果の公刊

- (2) 論文

## 1. 単著

- ・「開発と逃避の狭間で：ミャンマーにおける出家者の開発実践の変遷と行方」石森大知・丹羽典生編『宗教と開発の人類学』pp. 99-132、春風社、2019年。
- ・「寺院と出家」信田敏宏ほか編『東南アジア文化事典』、pp. 232-233、丸善出版、2019年。
- ・「出家者とカネ：上座仏教徒社会ミャンマーの事例から」『お金：お金に振り回されない生き方 (サンガジャパン Vol.34)』、pp. 59-81、サンガ、2019年。
- ・「仏教を結節点とした『つながり』と変容」土佐桂子編『転換期のミャンマーを生きる：「統制」と公共性の人類学』pp. 141-164、風響社、2020年。

## (3) 学会、研究会発表

- ・「『すべてを与えると、すべてが手に入る』：ミャンマー「自然法」瞑想センターを事例として」日本文化人類学会第53回研究大会、2019年6月2日。
- ・“How can we envision : the Anthropology of Buddhism?” SEASIA(Southeast Asian Studies in Asia) at Academia Sinica, Taipei, Taiwan, Dec. 6th, 2019.

## 2. 教育実績

### (1) 前期課程担当科目：

初年次ゼミナール文科

### (2) 後期課程担当科目：

文化人類学特殊演習(組織の人類学)、文化人類学基礎演習

### (3) 大学院担当科目：

文化現象論、研究技法トレーニングⅢ

### (4) 他学部、他研究科、他大学の授業科目

本郷文系研究所フロンティア講義「調査で見る社会、歴史、アジア」(オムニバス、1回担当)

## III 関谷 雄一

### 1. 研究・研究成果の公刊

#### (2) 論文

##### 1. 単著

- ・“Cultural Forms of Organization: Importance of learning process and human empowerment for sustainable development in modern Africa,” *African Studies Monographs*, Suppl. 58: 69-92, September 2019.
- ・「開発と支援—実践と研究のフィールドワーク」松本尚之他編『アフリカで学ぶ文化人類学—民族誌がひらく世界』, 昭和堂(2019) pp.243-261.

##### 2. 共著

#### (3) 学会、研究会発表 (2点)

- ・「災害と向き合う協働の民族／民俗誌—長期密着型フィールドワークの効果と課題—」(ポスター発表)、山泰幸との共同発表、日本災害復興学会2019年度鳥取大会 2019年11月9日～10日
- ・「協働の民族誌による災害レジリエンス創成」国際開発学会・人間の安全保障学会2019共催大会(東京大学駒場Ⅰキャンパス)2019年11月17日

#### (4) 書評、記事、エッセー、その他

- ・「書評：『サーヘル環境人類学—内陸国チャドにみる貧困・紛争・砂漠化の構造』(石山俊著、昭和堂)』『アフリカ研究』Vol. 96, pp.18-20, 2019.

## 2. 教育実績

### (1) 前期課程担当科目

人文科学ゼミナール

### (2) 後期課程担当科目

地域民族誌Ⅰ、専門英語(Ⅰ)、超域文化科学高度教養(文化人類学)、文化人類学特殊演習

### (3) 大学院担当科目

開発と文化Ⅱ、生存とライフスキルⅠ、人間の安全保障実験実習Ⅰ、人間の安全保障実験実習Ⅱ、メディア・コミュニティ・ネットワークⅠ、Supervised ReadingsⅡ、文化人類学演習Ⅱ、国際協力論実験実習Ⅱ、人間の安全保障演習Ⅳ

### (4) 他学部、他研究科、他大学の授業科目

アフリカ地域研究A(東京外国語大学)、民族誌(成蹊大学)、文化人類学概説(埼玉大学)

## 3. 学内行政業務

「人間の安全保障」プログラム運営委員、「人間の安全保障」プログラム教務担当、「人間の安全保障」プログラム評価委員長、国際交流・留学生委員、「多文化共生・統合人間学」プログラム運営委員・事務局長、後期課程文化人類学コース主任、後期課程超域文化科学分科副主任、後期課程教養学科教務委員、後期課程国際日本研究コース運営委員、グローバル地域研究機構持続的開発研究センター長

## 田辺 明生

## 1. 研究・研究成果の公刊

### (1) 著書

#### 2. 編著

・田辺明生・竹沢泰子・成田龍一編『環太平洋地域の移動と人種——統治から管理へ、遭遇から連帯へ』京都大学学術出版会、422頁、2020年

### (2) 論文

#### 1. 単著

・「反人種差別と霊的普遍主義——日印ナショナリズムの交差と分岐」『人文学報』第114号 159-170頁、2020年

・“Genealogies of the ‘Paika Rebellion’: Heterogeneities and Linkages”, *International Journal of Asian Studies*, Vol.17-1, pp.1-18.2020.

・「南アジア型発展経路とは何か——長期的視点から考える」藤田幸一・大石高志・小茄子川歩編『南アジアの人口・資源・環境——生態環境要因を重視した南アジアの長期発展経路解明のための中間報告』人間文化研究機構・ネットワーク型基幹研究プロジェクト地域研究推進事業「南アジア地域研究」京都大学中心拠点・研究グループ1、3-12頁、2019年

### (3) 学会、研究会発表

・“Democracy and Development in Tension: Predicament of Politico-economic Stalemate among the Dongria Khonds in Odisha, India,” International Workshop “Globalizing Life World and Transformation of Political Sphere” Institute for Development and Communication (IDC), Chandigarh, India, 28-29 Dec 2019.

## 2. 教育実績

- (1) 前期課程担当科目  
初年次ゼミナール文科
- (2) 後期課程担当科目  
歴史と文化I、社会人類学理論I
- (3) 大学院担当科目  
文化構造論I、文化人類学演習I、環インド洋地域文化演習I

### 3. 学内行政業務

文化人類学コース副主任、広報委員、教育研究経費委員、アジア研究図書館運営委員、東京大学附属図書館アジア研究図書館上廣倫理財団寄付研究部門兼務教員、GSI国際卓越大学院プログラム担当者、GSIディレクター

## 津田 浩司

### 1. 研究・研究成果の公刊

- (1) 著書
  - 1. 単著
    - ・ *Kung Yung Pao, The Only Daily Newspaper for the Ethnic Chinese in Java during Japanese Occupation: An Overview*, Taipei: Transmission Books & Microinfo, 94+v pp. March 2020.
- (3) 学会、研究会発表
  - ・ 「長津一史著『国境を生きる—マレーシア・サバ州、海サマの動態的民族誌』木犀社、2019年」へのコメント—東南アジアのエスニシティの立場から」、東南アジア学会2019年度第2回関東例会、2019年6月15日
- (4) 書評、記事、エッセー、その他
  - ・ 「歴史——高から東京大学教養学部へ」、東京大学教養学部（編）『東京大学駒場スタイル』、東京大学出版会、pp.14-17. 2020年6月
  - ・ 「春節の祝い」、信田敏宏（編集委員長）『東南アジア文化事典』、丸善出版、pp.632-633. 2019年10月
  - ・ 「教養学部創立70周年—東京大学駒場スタイル（4・最終回）駒場の秘話と、裏話と」、『UP』（48-12）: 1-6. 2019年12月

### 2. 教育実績

- (2) 後期課程担当科目  
文化人類学基礎論
- (3) 大学院担当科目  
文化人類学演習I、研究技法トレーニングIII

### 3. 学内行政業務

研究科長補佐、総務委員会、KOMCEE委員会、広報委員会、社会連携委員会、教養学部報委員会、オープンキャンパス担当、教養学部70周年記念シンポジウムWG、教養学部教授会時短効率化WG、総合文化研究科図書委員会、駒場図書館運営委員会、新駒場図書館検討WG、前期運営委員会、総合研究博物館運営委員会、評議委員会（文化人類部門主任）

## ||| 名和 克郎

---

### 1. 研究・研究成果の公刊

#### (1) 論文

##### 1. 単著

- ・「序—「言語人類学」と「指標性」の概念をめぐって」(《特集》指し示すことをめぐるダイナミクス—言語人類学と指標性). 『文化人類学』84(4): 431-442、2020年

#### (3) 学会、研究会発表

- ・“Undertaking Research on Transnational, Interdisciplinary and Multicultural Issues.” Presented at the Tribhuvan University International Conference “Internationalization of University Education”, Hotel Himalaya, Lalitpur, Nepal, June 9 2019.

#### (4) 書評、記事、エッセー、その他

- ・「近刊短評: 概説書等〜人類学系他(井出里咲子、砂川千穂、山口征孝『言語人類学への招待—ディスコースから文化を読む』、高田明『相互行為の人類学—「心」と「文化」が出会う場所』、エマニュエル・A. シェグロフ(西坂仰訳)『会話分析の方法—行為と連鎖の組織』)」。『ことばと社会—多言語社会研究』21: 230-231. 2019年

### 2. 教育実績

#### (3) 大学院担当科目

社会構造論(S)、文化人類学演習III(A)

#### 3. 学内行政業務

東洋文化研究所副所長、総合文化研究科教育会議委員、グローバル地域研究機構運営委員会委員、等

## ||| 福島 真人

---

### 1. 研究・研究成果の公刊

#### (1) 著書

##### 2. 編著

- ・山口富子+福島真人(編)『予測がつくる社会—「科学の言葉」の使われ方』東京大学出版会

#### (2) 論文

##### 1. 単著

- ・“Regimes on newness: an essay of comparative physiognomy,” *Interface Critique* 2: 105-122, 2019.
- ・“Multiple Personae in Contemporary Art,” *Art against Art*, vol 6: 26-31, 2019.
- ・“Before *Laboratory Life*: Perry, Sullivan and the missed encounter between psychoanalysis and STS,” *BioSocieties* (on line first), 2019.

#### (3) 学会、研究会発表

#### (4) 書評、記事、エッセー、その他

- ・福島真人(2019)「遥かなる未来を語ること—『予測がつくる社会』』『シノドス』
- ・森永泰弘×福島真人(2019)「サタン・音・欲望」『サタンジャワ』サイレント映画+立体音響コンサート・プレトーク <https://jfac.jp/culture/features/f-ah-setanjawa-morinaga-fukushima/>

(5) 辞書編纂、翻訳、上演等、その他

- ・講演「新しさのレジームーテクノロジー、アート、時間」パネルディスカッション『未来と芸術』(2020年1月13日森美術館)

## 2. 教育実績

(1) 前期課程担当科目(専攻長職のため休み)

(2) 後期課程担当科目

応用人類学Ⅱ、文化人類学特殊講義

(3) 大学院担当科目

文化認識論Ⅰ、文化人類学実験実習Ⅱ

## 3. 学内行政業務

超域文化科学専攻長、文化人類学コース長、防災委員、健康安全管理委員、教員評価委員、環境委員、共用スペース運用委員、ハラスメントに関する相談員、グローバル・センター運営委員、情報倫理審査会委員、駒場ファカルティハウス運営委員、男女共同参画支援施設運営委員、ヒトを対象とする実験倫理委員

# 宮地 隆廣

## 1. 研究・研究成果の公刊

(1) 著書

3. 共著

- ・東京大学教養学部スペイン語部会 『スペイン語学習の羅針盤 Brújula』朝日出版社, 2020年1月

(2) 論文

1. 単著

- ・「「よく生きること」と政治参加 エボ・モラレス政権および政権批判に対する批判的検討」『イペロアメリカ研究』(上智大学イペロアメリカ研究所) 第81号, pp.1-18, 2020年1月(査読あり)

(3) 学会、研究会発表

- ・“Analysis of presentations at Latin American studies associations in Japan, 1955-2018.” XXXVII International Congress of the Latin American Studies Association. Hotel Sheraton Boston, Boston, 2019年5月25日
- ・「モラレス政権の「よく生きること」と政治参加」第40回日本ラテンアメリカ学会定期大会、創価大学、2019年6月1日
- ・“Determinantes de capacidad recaudatoria: un análisis cuantitativo de los países latinoamericanos, 1990-2016.” X Congreso de la Asociación Latinoamericana de Ciencia Política, Instituto Tecnológico y de Estudios Superiores de Monterrey, Monterrey, 2019年8月1日
- ・「政治規範と連結性」ラテンアメリカ協会・インターアメリカンダイアログ第5回共催セミナー「分断された国際社会における日本とラテンアメリカのパートナーシップ」, インスティトゥト・セルバンテス東京, 2019年9月27日
- ・「「紛争の年」2019年とボリビア：経済的諸要因に対する批判的検討」東京大学ラテンアメリカ研究センター (LAINAC) Brown Bag #40 「ボリビアで今何が起きているのか エボ・モラレス政権と再選挙を考える」東京大学駒場キャンパス、2020年1月13日

(4) 書評、記事、エッセー、その他

- ・「書評：岡田勇『資源国家と民主主義 ラテンアメリカの挑戦』名古屋大学出版会，2016年9月』『国際政治』（日本国際政治学会）第196号，pp.168-171，2019年5月

(5) 辞書編纂、翻訳、上演等、その他

- ・「特集「大統領がメキシコに亡命。南米ボリビアで今、何が起きているのか」TBSラジオ「荻上チキ Session 22」ニュース解説、2019年11月13日
- ・「モラレス氏亡命 政情不安続くボリビア」NHK BS1「キャッチ！世界のトップニュース」ニュース解説、2019年11月25日

## 2. 教育実績

(1) 前期課程担当科目

スペイン語一列、スペイン語二列、人文科学ゼミナール(テキスト分析)

(2) 後期課程担当科目

フィールド演習、文明と社会I、文化人類学特殊演習(公共政策論)、文化人類学特殊演習(民族誌作成)

(3) 大学院担当科目

文明と地域社会I、文明と地域社会II

(4) 他学部、他研究科、他大学の授業科目

ラテン・アメリカ政治論A(拓殖大学)、ラテン・アメリカ政治論B(拓殖大学)、国際社会の政治・経済(電気通信大学)

## 3. 学内行政業務

学生委員、情報基盤委員、三鷹国際学生宿舍運営委員、国際人材育成プログラム (GSP) 運営委員、総合研究棟管理委員

## III 筋内 匡

### 1. 研究・研究成果の公刊

(1) 著書

3. 共著

- ・大村敬一・湖中真哉編『「人新世」時代の文化人類学』放送大学教育振興会、194-224頁(「12 自然と身体の人類学」および「13 イメージと創造性の民族誌」を執筆)、2020年3月

(2) 論文

1. 単著

- ・「神々が息づく映画—ルーシュとアフリカ的自然」千葉文夫・金子遊編『ジャン・ルーシュ—映像人類学の越境者』森話社、113-134頁、2019年10月
- ・「生きものとしての学会誌—『文化人類学』編集委員会で学んだこと」『文化人類学研究』第20巻、28-49頁、2019年12月

(3) 学会、研究会発表

- ・“Anthropology of Images, between Flashbacks and Flash-forwards,” Departmental Seminar, Department of Social Anthropology, Faculty of Social Sciences, University of Oslo, 15 May 2019.
- ・“Rethinking Japanese ‘Culture’: Anxiety, Identity, and Becoming-Other,” East Asian Lunch Seminar, University of Oslo, 16 May 2019.
- ・「〈イメージの人類学〉をめぐる」連続講演「文学としての人文知」第1回「文化人類学

と文学」東京大学フランス語フランス文学研究室主催、東京大学本郷キャンパス、2019年7月1日

(4) 書評、記事、エッセー、その他

・「イメージの人類学から見た映像と建築」『GA JAPAN』159号(特集MOVIE/建築)、120～123頁、2019年7月

(5) 辞書編纂、翻訳、上演等、その他

・放送大学番組「『人新世』時代の文化人類学」第12回「自然と身体の人類学」・第13回「イメージと創造性の民族誌」(企画・原稿執筆・映像素材収集・場面構成・出演)、2020年3月

## 2. 教育実績

(1) 前期課程担当科目

初年次ゼミナール文科、文化人類学II

(2) 後期課程担当科目

文化人類学理論II

(3) 大学院担当科目

文化人類学演習II

## 3. 学内行政業務

情報基盤委員等

# 渡邊 日日

---

## 1. 研究・研究成果の公刊

(1) 学会、研究会発表

- ・「〈不確実性の民族誌〉を読む」, 日本文化人類学会研究大会, 2019年6月2日(東北大学)
- ・「内尾太一『復興と尊厳』を／を通して読む」, 日本文化人類学会関東地区研究懇親会, 2019年7月14日(東京大学)

## 2. 教育実績

(1) 前期課程担当科目

ロシア語関連科目

(2) 後期課程担当科目

文化人類学理論I, 文化人類学特殊演習a(ロシア・東欧の民族)、ロシア東欧特殊研究演習Ia(ロシア・東欧の「民族問題」を読む)

(3) 大学院担当科目

文化人類学演習II、文化人類学演習III、民族社会論II

## 3. 学内行政業務

ロシア語部会主任、外国語委員会委員長、国際研修委員会委員長など